

## 2009年3月期 第2四半期決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容

(2008年10月30日実施)

### 【全般】

Q1: 新しい通期予想では、第3四半期の営業利益が100億円を下回ると見込まれますが、その理由は何ですか。

A1: 1番目の理由は円高です。2番目の理由として世界経済の減速により、上期好調だった半導体部品関連事業で、サーバー向けパッケージ、CCD/CMOS用パッケージなどが、下期は落ち込むと予想しています。

Q2: CCD/CMOSパッケージのシェアが低下しているのですか。

A2: 当社はCCD/CMOSパッケージで7割のシェアを有しており、シェアは上がってきています。

Q3: この不況下、社長が現場に指示されていることは何ですか。

A3: まずは経費削減です。過去3年、事業環境が良かったため、どうしても無駄な経費が増えていました。現在、残業ゼロや出張費の削減などに取り組んでいます。

Q4: 固定費を下げることは考えていますか。

A4: 余剰人員は出ていませんので、考えていません。

Q5: 棚卸資産が2008年3月末に比べ100億円強増加していますが、単体ではどうですか。

A5: ソーラー事業での出荷タイミングの問題と、事業承継により携帯端末の在庫が増加しています。

### 【ファインセラミック応用品関連事業】

Q6: ソーラーエネルギー事業に関して、売上高及び利益率について教えてください。

A6: 前期は200MWを生産し、今期の計画300MWは予定通り進んでいますので、通期の売上は、ほぼ前期比50%増と考えていただいて結構です。利益率は変化ありません。

Q7: 来期の事業環境について、住宅着工数減や融資減少による影響を受けるのではないですか。

A7: 世界全体で見れば、絶対量は増加します。ドイツではフィードインタリフの影響により価

格が8～10%下落する見込みであり、またスペインはドラスティックに価格を下げる見通しですが、米国で補助金1兆8千億円、日本でも住宅用に237億円が補助される予定です。韓国やインドでも補助金制度が拡大しています。グローバルに補助金が拡大傾向にあるので、大きな影響は受けないと考えています。

#### 【電子デバイス関連事業】

Q8: 第2四半期の電子デバイス関連事業に関して、第1四半期比増収減益となった背景と、下期の事業利益の見通しについて教えてください。

A8: 第1四半期比での増収要因はAVXの影響、減益要因は減損処理とコンデンサ事業の不振です。下期の事業利益については、第3四半期と第4四半期は変わらないと見えています。

Q9: 薄膜デバイス事業は収益性が大幅に落ちていませんか。

A9: 大きな影響はありません。

Q10: 第2四半期の事業利益は8億円であるのに対し、下期は30億円に増加する理由は何ですか。

A10: 特別な要因はありません。第2四半期の減損分がプラスになるほか、AVXが若干持ち直してくると見えています。

Q11: 電子部品の在庫状況について教えてください。

A11: 過剰在庫にはなっていません。代理店での在庫調整が入っています。

Q12: 第3四半期、第4四半期の稼働率の目標数値はありますか。

A12: コンデンサ事業の稼働率は、第2四半期で75%でした。数量は増加していますが、大きく伸びていません。第3四半期と第4四半期は横ばいが見込んでいます。水晶事業の稼働率は若干高く、上期は80～90%です。第3四半期以降は携帯端末関連で若干減少すると見えています。

Q13: コンデンサ事業を回復させるための施策について教えてください。

A13: 新製品につながる製造技術面での問題が2つあります。1つ目は既に目処が付いており、2つ目は開発部門を総動員して取り組んでいます。この技術課題をクリアすれば優位性が実現できると考えています。

【通信機器関連事業】

Q14: 下期の通信機器関連は大幅な赤字となるようですが、その要因について教えてください。

A14: 国内端末事業については売上が減少するものの、利益は確保できる見通しです。海外端末事業はかなり厳しい状況にあります。

Q15: 厳しいというのは単価ですか、数量ですか。

A15: 数量が当初の見通しから大きく落ちています。

Q16: 来年に向けて打つ手はありますか。

A16: 海外端末事業においては、既存の米国キャリアの業績が厳しいため、新規客先となるキャリアに対する販路の開拓をしていきます。

Q17: 海外端末事業の不振の要因に、戦略上の問題はなかったのですか。収益を改善するために、下期、固定費を前倒しで削減することはできますか。

A17: Q-Chat端末の出荷が見込み外れで数量減となりました。生産に関しては、海外工場の融合を含め、効率を上げる体制の構築を検討しており、来期には効果が出てくると見えています。開発に関しては、来期にかけて、世界4拠点の統合準備を進めており、コスト低減に努めていきます。

Q18: 来期のKWCの損益見通しについて教えてください。

A18: 赤字を解消すべく手を打っていきます。

Q19: 通信機器関連事業の下期の事業損失は150億円となる予想ですが、第3四半期、第4四半期の利益推移について教えてください。

A19: 今年のクリスマス商戦需要は大変低調になると考えています。売上は第3四半期、第4四半期とフラットで推移すると見えています。損失も第3四半期、第4四半期で半々というイメージです。経費削減の効果が第4四半期に出てくれば、第3四半期に比べ若干損失が改善します。

Q20: この下期は、例えば、人員削減のような大鉈をふるう施策は考えていないという理解で良いですか。

A20: 結構です。

Q21: 国内の携帯端末事業に関して、通期で黒字の見通しですか。10月27日に発表されたauの冬モデル7機種の中に、SANYOモデルが入っていませんでしたが、下期のSANYOブランドのモデル投入予定について教えてください。

A21: 1年前に開発したモデルをこれから販売することになっていますが、下期の販売についての計画はありません。しかし、KCブランドモデルは冬モデル7機種の中に入っています。さらに、春モデルに投入を目指す3機種と合わせ、ターゲットを絞った端末を展開していきます。国内事業は利益が確保できると見えています。

Q22: 承継事業ののれん減損について、今期考えますか。

A22: 考えておりません。

#### 【情報機器関連事業】

Q23: 情報機器関連事業の事業動向や戦略について教えてください。

A23: 売上構成の半分が欧州であるため、円高ユーロ安が大きく影響しています。カラー化に対する施策は遅れてはいますが、生産の目処は既についています。9月には新カラープリンタの生産を開始し、11月には新カラーMFPの生産を開始します。欧州での売上は大きく落ちることはありませんが、事業環境はやはり厳しいと見えています。カラーの新製品を軸に、落ち込みを食い止めたいと考えています。

以上